



令和2年度 冬号



## としょかんだより 中学年向け ブックリスト



あいおいしりつとしょかん ☎0791-23-5151



クリスマス、大みそか、お正月…。冬休みは楽しいことばかり！  
ケーキにチキン、年越しそば、おせちとおぞうに。おいしいごちそうが  
つづくのも、みりょくてき！！あなたはどんな冬休みをすごしますか？



## クリスマスの本



『ムーミン谷のクリスマス』徳間書店//P-ヤ トーベ・ヤンソン・原作  
アレックス・ハリディ セシリア・ダヴィッドソン・文  
フィリッパ・ヴィードルンド・絵

「ママ、<sup>お</sup>起きて。なんかおそろしいものがやってくるんだって！『クリスマス』  
っていう名前らしいよ」ムーミントロールがあわててママを起こします。毎年11  
月の終わりごろから、一家はぐっすり<sup>とうみん</sup>冬眠をしているので、「クリスマス」なんて  
知らないのです。ごきんじょにすむ、ヘルムさんに起こされたムーミントロールは、  
クリスマスのじゅんびでいそがしそうに走りまわる人々をながめ、「クリスマス」  
が「こわいもの」だとかんちがいします。

ごちそう、もみの木、プレゼント…。さむさときょうふにふるえ  
ながら、一家は見よう見まねでクリスマスのじゅんびをし、おそろ  
しいてきに立ちむかいます。

ムーミン一家はじめてのクリスマスは、とってもスリリング！



『たのしいおまつり ナイジェリアのクリスマス』

イフェオマ・オニエフル 作・写真//偕成社//38

アフリカ大陸<sup>たいりく</sup>にある、ナイジェリアという国。ここでくらす人びとは、クリス  
マスに「モー」という<sup>せいれい</sup>精霊になりきって、パーティーやダンスをします。はでな  
<sup>ぬの</sup>布や、<sup>とり</sup>鳥の<sup>はね</sup>羽、手づくりのおめんで、子どもたちも「モー」のかそうをします。  
「モー」とは一体どんなすがたをしているのでしょうか。

日がさに、ティーシャツに、サンダル。あついクリスマスって、  
なんだかふしぎですね。日本では見なれないごちそうもたくさん  
とうじょうしますよ。



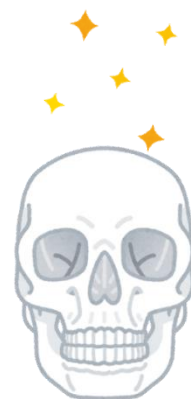
# こたえは本の中に…。 じっくりよみたいちしきの本。

## 『ながいながい骨の旅』

松田素子・文 川上和生・絵//講談社//P-マ

ずっとむかし。うちゅうの中に地球が生まれた時、そこに生き物はいませんでした。あるとき長い雨がふりつづき、地球に海ができました。その海の中に目に見えないほどの小さな生き物があらわれたのです。それが今、地球でくらすすべての生き物の祖先です。でも、さいしょの生き物に骨はありませんでした。わたしたちの祖先は、より生きやすいようにすがたをかえていったのです。そしてさいしょの生き物があらわれてから、なんおく年もたってようやく骨をもつ生き物が生まれたのです。

「骨の旅」をめぐる、おどろきとかんどうのががく絵本です。



## 『世界のともだち 04 フィンランド』

松岡一哲 写真・文//偕成社//29

フィンランドのこっき。  
白に青の十字。



フィンランドの首都、ヘルシンキ。海と森にかこまれた町でくらすカオリはしっかりものの8才の女の子です。お父さん、お母さん、タロとジロという名前の弟の5人かぞく。

カオリ、タロ、ジロ、って日本の名まえみたいだと思いませんか？カオリのおじいちゃんは日本人です。りょうごうでおとずれたフィンランドが大好きになり、そのままくらすことにしたんだって！

冬は雪の中でそりあそび、夏は海に行ったりバーベキューをしたり。フィンランドの子どもたちのくらしを写真でしようかいします。

『世界のともだち』シリーズはほかにもたくさんあります。

## 『しょうたとなっとう』 星川ひろ子・星川治雄 写真・文

小泉武夫 原案・監修 //ポプラ社//36

なっとうがどのようにつくられるか、知っていますか？

大豆からできることを知っていても、大豆がどうやってねばねばのなっとうになるのか、知っている人は少ないかもしれませんね。

大豆農家でそだったしょうたは、なっとうがきれいです。ある年の夏、おじいちゃんと青大豆のたねまきをしたしょうた。おじいちゃんは、大豆のことはなんでも知っています。しょうたははじめて、大豆のたねがそだってえだまめになることを知りました。

えだまめがかけると、中にはかわいた大豆がのこります。さあ、ここからどうやってなっとうができるのでしょうか？そして、しょうたのなっとうぎらいは、なおるのでしょうか？つづきはぜひ、本をひらいてみてください。



# まだまだあるよ！おすすめの本

『「イグルー」をつくる』 あすなろ書房//P-ス

ウーリ・ステルツァー 写真・文



長くきびしい北極の冬。海は2メートルものあつさの氷におおわれる。大昔からここに住むイヌイットとよばれる人々は、冬の間イグルーという雪の家をつくる。日本の「かまくら」ににているけれど、作り方はちがう。

10キロもある大きな長方形の雪のブロックを切り出し、じめんかららせん状につみ上げていく。中で火をくべるからえんとつも作る。まどにはガラスのかわりにくりぬいた流氷をはめこむ。

モノクロの写真と最小限の説明で語られる、イグルーのつくりかた。

『名犬ボニーはマルチーズ① ボニーがうちにやってきた』

ベル・ムーニー 作//徳間書店//93-ム

ハリーは小学生の男の子。お母さんと2人でひっこしてきたばかりで、新しい町にはまだ友だちがいません。

ある日のこと、お母さんがいっぴきの犬をつれてきました。ずっと犬をかいたがっていたハリーですが、その犬を見てがっかりしてしまいます。お母さんがつれてきたのは、ねずみみたいに小さなマルチーズだったのです。ハリーがほしかったのは、大きくて、つよくて、自分をまもってくれるあいぼうみたいな犬です。「こんなの犬じゃない！」とすねるハリーですが、ボニーと名づけられたマルチーズは、キツネみたいに頭がよくて、クマみたいにゆうかんでした。それにボニーがうちにきてから、ハリーのまわりでは、いいことばかりがおこるようになりました。

ハリーと小さなあいぼうボニーがかつやくする、たのしいものがたりです。



『わたしのねこメイベル』

ジャクリーン・ウィルソン//小峰書店//93-ウ

ヴェリティのペットは、メイベルというおばあちゃんねこ。ヴェリティより年上で、さいきんはいつもねている。

死んでしまったママとの思い出話を、メイベルだけがきいてくれる。パパやおばあちゃんは、ママの話をするとなかなしい顔をするから話せない。

ある日、大切なメイベルがいなくなってしまった。家じゅうをさがしたヴェリティは、クローゼットの中でつめたくなっているメイベルを見つけた。

メイベルとおわかれしたくないヴェリティは、学校のじゅぎょうで古代エジプト人が死んだネコをミイラにする話を思い出して…。

だれもがけいけんする、だいじな人や動物とのわかれをえがきます。



『<sup>きゅうごう</sup>急行「<sup>ほっきょくごう</sup>北極号」』

C. V. オールズバーク//あすなろ書房//P-オ

「サンタなんて、どこにもいないんだよ」友だちにそう言われても、信じられない少年は、クリスマス・イブのよなかにすすの音をきいた。こっそり家をとび出し、そこで見たのはパジャマすがたの子どもたちをのせた大きなきしゃ、<sup>きゅうごう</sup>急行「<sup>ほっきょくごう</sup>北極号」だった。森や山をこえて、きしゃがたどりついたのは<sup>せかい</sup>世界のとっぺんにある大きな<sup>まち</sup>街。ここからサントクロースのそりが<sup>しゅっぱつ</sup>出発するという。幸運にもサンタから今年<sup>さいしよ</sup>最初のプレゼントをもらえることになった少年は、いったいなにをもらおうと思う？

信じることのすばらしさを<sup>えが</sup>描く、<sup>うつく</sup>美しい絵本。



『本気でやれば、なんでもできる!?!』徳間書店//93-ヨ

ジョン・ヨーマン・作 ケンティン・ブレイク・絵

小学3年生のピリーは、図工のじゅぎょうで作るかごがうまくあめず、いのこりをさせられます。算数はべんきょうすればできるけれど、かごはあめない、とおちこむピリーに、先生は「いっしょうけんめいがんばれば、できないことなんて、ひとつもないのよ。」と言ってくれました。

それを聞いて、やる気を出したピリーですが、友だちのメラニーに「できないことはできない」と言われてしまいます。メラニーと言い合いになったピリーは、つい「がんばれば、頭に<sup>つの</sup>角だってはやせる」と言ってしまいます。

その夜、どうにか角をはやそうと、うらないやおまじないをするピリー。するとつぎの日、かれの頭のりょうがわに、小さなこぶのようなものがはえてきて…。ピリーの頭は、どうなってしまったのでしょうか？



『アンナの赤いオーバー』評論社//P-ジ

ハリエット・ジーフェルト・文 アニタ・ローベル・絵

「戦争<sup>せんそう</sup>が終わったら、あたらしいオーバーを<sup>お</sup>かってあげようね」 アンナはお母さんとやくそくしていたのに、戦争<sup>せんそう</sup>が終わった今、お店に似たものはないし、アンナの家にはお金もありませんでした。

お母さんとアンナは、オーバーを作るためにひつようなものをさがし、うちにあるものところかんしてもらったり、もらうかわりに<sup>しごと</sup>仕事をしたりして、<sup>ざいりょう</sup>材料をあつめます。羊から<sup>ようもう</sup>羊毛をかりとり、羊毛から毛糸をつむぎ、コケモモの実で赤くそめます。1年もの時間をかけて、アンナとお母さんはせかいで1まいのオーバーを作ります。

